

Ⅱ 社会科の問題と 結果・分析

Ⅱ 問題の結果・分析

1 出題のねらいと評価

1 社会的事象への関心・意欲・態度	2 社会的な思考・判断
3 資料活用・表現	4 社会的事象についての知識・理解

内容	大問	小問	設問のねらい	評価			
				1	2	3	4
世界の地域構成	1	(1)	半球図上に示された大陸や海洋の名称と分布を理解している。				○
		(2)	半球図上に示された大陸や海洋の分布を読み取ることができる。			○	
		(3)	半球図と世界地図を比較し、それぞれの特色を読み取ることができる。			○	
		(4)	地図帳の索引の示し方を理解している。				○
日本の地域構成	2	(1)	日本の領域の特色を理解している。				○
		(2)	日本の位置を主な経緯線との関係で理解している。				○
		(3)	日本の領土面積と経済水域面積を世界の国々と比較してとらえることができる。			○	
		(4)	北方領土の名称を理解している。				○
身近な地域	3	(1)	目的に応じた縮尺の地図について理解している。				○
		(2)	目的に応じて適切な調べ方を考えることができる。		○		
		(3)①	聞き取り調査の手順を理解している。				○
		(3)②	農家の栽培の工夫について、質問したいと思うことを考えることができる。	○	○		
都道府県	4	(1)①	全国の工業と比較した長野県の工業の特色を、統計資料から読み取ることができる。			○	
		(1)②	隣り合う4県と比較した長野県の工業の特色を、統計資料から読み取ることができる。			○	
		(2)	資料を基に、諏訪地方で精密機械工業が発達した理由を読み取ることができる。			○	
		(3)	長野県の農業生産額の割合を示したグラフを選択することができる。			○	
歴史の流れ	5	(1)	世紀による年代の表し方を理解している。				○
		(2)	資料から古代の政治の中心地に関する情報を選択することができる。			○	
		(3)	貴族の生活に関する資料からその時代を読み取ることができる。			○	
		(4)	新聞記事の資料をみて、記事の内容からテーマを考察できる。		○		
古代までの日本	6	(1)	卑弥呼が政治を行っていた時代の特色を理解している。				○
		(2)①	示された写真資料が前方後円墳であることを理解している。				○
		(2)②	古墳からの出土品の特色を理解している。				○
		(3)	聖徳太子の外交の特色を資料から読み取ることができる。			○	
		(4)	万葉集の資料から律令制度下の農民の様子を読み取り、表現できる。			○	
近世の日本	7	(1)①	城下町など三つの資料に共通する特色を指摘できる。		○		
		(1)②	示された地図資料が城下町であることを読み取ることができる。			○	
		(2)	南蛮寺など三つの資料をみて、資料に共通するテーマを考察できる。		○		
		(3)	南蛮寺に関する資料が示す時代の外国との文化交流の様子を理解している。				○
	8	(1)	資料をみて、資料の分類分けの観点を考察し、判断できる。		○		
		(2)	検地と刀狩の特色を理解している。				○
		(3)	興味ある資料を選択し、それについて調べようとしている。	○			

2 正答と主な誤答例

内容	大問・小問	正 答	主な誤答例
世界の地域構成	①	(1) 3	1
		(2) 1	2
		(3) 1	2
		(4) 2	1
日本の地域構成	②	(1) エ	イ ウ
		(2) 2	1
		(3) 2	1
		(4) 北方（領土）	朝鮮／ロシア／日本／千島／海／千島／アメリカ／はっぽう
身近な地域	③	(1) 1	2
		(2) 4	2
		(3) ① ウ	イ
		(3) ② (例) 甘いぶどうを収穫するために、どんな工夫をしていますか。 (例) 病虫害の被害を防ぐために、どんな工夫をしていますか。	栽培の時に気を付けていることは何ですか。／育て方の秘訣は何ですか。／農家を始めて何年ですか。
都道府県	④	(1) ① (例) 全国と比べ、長野県は電子部品（情報通信）が占める割合が高い。 (例) 全国と比べ、長野県は輸送用機器が占める割合が低い。	機械製品が多い。／電気を使う工業が多い。／あまり細かい部品を作っていない。／大きな機械の基になる部品が多い。
		(1) ② 2	4
		(2) 2	4
		(3) 4	3
歴史の流れ	⑤	(1) 世紀	西暦／年号／年代／西紀／時代
		(2) 4	6 7
		(3) 5	8 6
		(4) (例) 農民（農村）のくらしの移り変わり (例) 各時代の農民のくらし	時代の流れ／古代の政治の中心地 農民と農村／弥生から近世までの歴史／昔の日本人のくらし
古代までの日本	⑥	(1) 4	1 2
		(2) ① 前方後円墳	カギ型古墳／前方後えい墳／円方後円墳／古墳／大仙古墳
		(2) ② 1	2
		(3) 2	4
近世の日本	⑦	(1) ① 外敵の侵入を防ぐために周りにほり（濠）がつくられている。	周りに畑がある／家の周りを囲っている／周囲に何もなし
		(1) ② 3	1
		(2) ① 2	3
		(2) ② 4	2 3
	⑧	(1) 2	3
		(2) 4	2
		(3) (略)	(略)

3 問題と結果の考察－1

(単位：%)

内容	大問	小問	問 題	正 答	国の正答率	市の正答率	自校正答率												
世界の地域構成	1	(1)	三つの方向からみた、半球図から、大陸名や海洋名の正しい組み合わせを答える。  1 ③ 北アメリカ大陸 ⑤ オーストラリア大陸 イ 太平洋 2 ② アフリカ大陸 ③ ユーラシア大陸 ウ 太平洋 4 ① ユーラシア大陸 ② 南アメリカ大陸 ア インド洋	3 ③ 北アメリカ大陸 ④ 南アメリカ大陸 イ 大西洋	48	54													
		(2)	(1)の半球図をみて、正しいものを選ぶ。 2 ②と⑤の大陸は、どちらも赤道が通っている。 3 ④と⑤の大陸は、どちらも本初子午線から西側に位置している。 4 ③の大陸は北半球と南半球にまたがっている。	1 アとイの海洋は北半球と南半球の両方にまたがっている。	36	35													
		(3)	地球を三つの方向からみた半球図と世界地図を比較して、経線と緯線や表される面積など、それぞれの地図の特色を答える。 2 世界地図では、オーストラリア大陸がグリーンランドより大きく表される。 3 半球図では、経緯線が直線になる。 4 半球図では、1枚の地図で世界の大部分が見渡せる。	1 半球図：ほとんどの経緯線が曲線、グリーンランドはオーストラリア大陸より小さい… 世界地図：世界の大部分が見渡せる…	69	78													
		(4)	地図帳の索引の示し方を答える。 1 38E 38④ 3 38④ 4 38E	2 38E④	83	86													
日本の地域構成	2	(1)	モンゴル、インドネシア、アルジェリア、ニュージーランドの領域の特色と比較して、日本の領域の特色を答える。 ア 二つの大きな国に囲まれた内陸国 イ 島国だが、国境の一部は隣の国と陸続き… ウ 北側は海に面しているが、それ以外はいくつかの国と陸続き…	エ 島国なので、陸続きの国境はない。	59	75													
		(2)	日本の位置を主な経線と緯線や赤道または他国との関係で答える。 1 インドネシアは日本と同じ緯線が通っている。 3 日本とニュージーランドは北緯、南緯の違いはあるが、40度の経線が通っている。 4 …緯度0度の本初子午線が通っています。	2 緯度0度の赤道が…インドネシアでは日本と同じ経線が通る…	42	44													
		(3)	日本、モンゴル、アルジェリアの領土面積と経済水域を示した表中の正しい国名の組み合わせを選ぶ。 <table><tr><th>国 名</th><th>領土面積</th><th>経済水域面積</th></tr><tr><td>(A)</td><td>38万km²</td><td>405万km²</td></tr><tr><td>(B)</td><td>157万km²</td><td>0万km²</td></tr><tr><td>(C)</td><td>238万km²</td><td>14万km²</td></tr></table>	国 名	領土面積	経済水域面積	(A)	38万km ²	405万km ²	(B)	157万km ²	0万km ²	(C)	238万km ²	14万km ²	(A) 日本 (B) モンゴル (C) アルジェリア	50	55	
		国 名	領土面積	経済水域面積															
(A)	38万km ²	405万km ²																	
(B)	157万km ²	0万km ²																	
(C)	238万km ²	14万km ²																	
(4)	日本固有の領土であるにもかかわらず、現在ある国に占拠されている島々の名称を答える。	北方(領土)	71	74															

世界の地域構成

(1) 結果の概要

- ① (1) 半球上に表された大陸と海洋の位置と名称を理解しているかを問う設問である。半球図は世界地図のように世界のほとんどが見渡せる状態でないことや周辺部が大きくゆがむことから、正答を選びにくかった生徒も多くいたようである。誤答の原因としては、海洋を大陸との位置関係で正確にとらえる力が十分身に付いていないことが考えられる。
- (2) 誤答のばらつきはほとんどなかった。正答率が低かった原因としては、半球上での赤道の位置を正確に理解していないこと、世界の海洋を五大洋に分類した場合にそれぞれの大洋の広がりについての理解が十分定着していないことが考えられる。
- (3) 地球を半球図と世界地図に表した場合の表現の違いを読み取る設問で、正答率が高かった。問題文中で比較対象とされたグリーンランドとオーストラリア大陸が、実際の授業でも例示されることが多く、指導の成果が表れていると考えられる。
- (4) 地図帳の索引の示し方が理解できているかを問う設問である。正答率は高かった。縦と横の座標での示し方を概ね理解していると考えられる。

(2) 指導のポイント

指導にあたっては、積極的に地球儀と地図の両方を活用して学習を進めていくことが基本である。小問(3)や(4)にみられるように、授業で教材として取り上げることが多いものや、地図帳の使い方のように日頃、繰り返し体験していることを問う設問の正答率は高くなっている。このことから、印象的な教材を用意し、生徒が自分で作業する学習活動を数多く取り入れることが大切である。

また、地球儀の活用に関しては様々な角度から見た地球の姿をスケッチさせるなどの工夫も必要であると考えられる。その際、常に赤道の位置に着目させることに留意する。

日本の地域構成

(1) 結果の概要

- ② (1) 日本の国境線の特色について理解しているかを問う設問である。正答率が高く、日本は島国であることをよく理解していると考えられる。また、問題文中に説明だけでなく比較対象の国の国名が示されたことも生徒の思考を助けたと考えられる。
- (2) 日本の領域の広がりを経緯線との関係で理解しているかを問う設問である。問題文の文脈からも容易に正答できると考えたが、予想よりも正答率は低かった。選択肢ごとの誤答の分布では、およそ4分の1の生徒が1を選んでおり、緯線と経線を取り違えていることがわかった。説明文を読み、論理的に考えることに消極的であると考えられる。
- (3) 日本の領土面積と経済水域面積の特色を他の国々と比較してとらえることができるかを問う設問である。正答率は55%であった。選択肢ごとの解答からは日本だけに限ってみると77%が正答していた。残った2つの国(アルジェリア・モンゴル)の組み合わせで20%を越える生徒が間違ったことになる。その原因として「経済水域」についての理解が不足していることや、説明文を読み、論理的に考えることが不得手であると考えられる。また、問題が見開きでなく、2ページに渡っていたことが生徒の思考に影響を与えた可能性も考えられる。
- (4) 無答率が11%と高かったが、正答率も高く、北方領土について概ね理解していると考えられる。一方で、誤答をみると「はっぽう」「とっぽう」等、何となく音で覚えていて、漢字で正確に理解していないと考えられる。

(2) 指導のポイント

多くの資料を比較検討し、考えていくことに消極的な傾向がある。積極的に地図を活用させることが基本になるが、地図を見て「○○の名称を答える」のようなクイズ的な学習活動だけではなく、地図から分かることを自分の言葉でノートにまとめさせたり、発表させたりする学習活動を取り入れることが大切である。その際、他国と比較するという視点をもつことが日本の特色の理解を深めさせると考えられる。また、基礎的・基本的事項の定着のために、例えば生徒に教科書を読ませる場合、字面を追うだけでなく「音読」させて音でも正確に理解させるなどの工夫が必要である。

3 問題と結果の考察－2

(単位：%)

内 容	大 問	小 問	問 題	正 答	国の正答率	市の正答率	自校正答率
身近な地域	3	(1)	身近な地域の調査活動で持ち歩くのに適した地図の縮尺を答える。 2 5万分の1 3 20万分の1 4 50万分の1	1 2500分の1	30	39	
		(2)	身近な地域の調査で「なぜ、ぶどうの栽培がさかんなのか」というテーマで調べる場合に不適切なものを答える。 1 栽培が広まった理由について郷土史家を訪ねて… 2 気候や土壌を役場の農業関係課を訪ねて… 3 産地としての発展の工夫について農協を訪ねて…	4 ぶどう園の描き方を美術館の学芸員に聞きに行く。	80	87	
		(3) ①	農家を訪ねて聞き取り調査をする場合、3番目にあたる事柄を答える。 ア 調査結果をまとめる。 イ 内容を検討し、調査票を作成する。 エ 報告書を付けて農家にお礼の手紙を出す。 カ 訪問する農家を選び、調査を依頼する。	ウ 農家に行って聞き取り調査をする。	55	68	
		(3) ②	ぶどうの収穫期までの3,4ヶ月間の農家の栽培の工夫について、聞き取り調査をする場合、その内容を具体的に考えて、記述する。	甘いぶどうを収穫するためにどんな工夫をしていますか。	41	61	
都道府県	4	(1) ①	全国と長野県の「製造品出荷額の業種別割合」をみて、全国と比べて長野県の工業の特色を読み取って、その特色を記述する。	全国と比べ、長野県は電子部品(情報通信)が占める割合が高い。	60	53	
		(1) ②	四つの県(岐阜県、愛知県、富山県、山梨県)の「製造品出荷額の業種別割合」と長野県を比べた場合、長野県の特色として不適切なものを選んで答える。 1 長野県と岐阜県は、ともに一般機械が12%を超えている。 3 長野県は機械工業関係の業種が上位を占めているが、富山県は金属製品、化学工業、電子部品が上位にみられる。 4 長野県と山梨県は、上位4位以内に入っている業種が同じである。	2 長野県と愛知県は、ともに機械工業がさかんであるが、愛知県は一般機械が、長野県は電気機器が第1位を占めている。	53*	77	
		(2)	長野県の工業地域の一つである諏訪地方の精密機械工業が発達した理由として示された資料からは読み取れないものを選んで答える。 1 歴史的なできごとの影響があった。 3 労働力にめぐまれていた。 4 新しい技術を開発した人々の努力があった。	2 原料となる地下資源にめぐまれていた。	56	65	
		(3)	長野県、新潟県、群馬県、山梨県の四つの県の米、野菜、果実の生産額の表とグラフをみて、長野県のグラフを選んで答える。 1 米>野菜>果実 2 果実>野菜>米 3 野菜>米>果実	4 野菜が最も多く、米と果実がほぼ同じ割合	64	65	

身近な地域

(1) 結果の概要

- ③ (1) 身近な地域の学習にふさわしい地図の縮尺が理解できているかを問う設問である。授業で活用する機会の多い5万分の1の縮尺の誤答を筆頭に、20万分の1や50万分の1の縮尺も選択している。このことから縮尺についての知識が確実に定着していないと考えられる。
- (2) 「地域でぶどうの栽培がさかんな理由」としてふさわしくない調べ方を考えることができるかを問う設問である。正答率は高く、目的に応じた適切な調べ方を考える力が身に付いていると考えられる。
- (3) ① 目的に応じた聞き取り調査の手順が理解できているかを問う設問である。多くの生徒が事前準備、聞き取り調査、結果のまとめやお礼への学習過程を概ね理解している。誤答ではイの「調査の内容を検討し…」と答えた生徒が16%ほどいて、「聞き取り調査後に内容検討を行い、まとめの過程として調査票を作成する。」と誤って理解している生徒がいると考えられる。
- ② 農家の栽培の工夫について質問したいと思うことを考えられるかを問う設問である。多くの生徒が、収穫期までの3、4か月間の農家の栽培の工夫について具体的に考えるという条件を踏まえ記述していた。反面、無答率も高く、課題にそった質問内容を自分で考えて記述することに意欲をもてなかったり、苦手としたりする生徒も少なくないと考えられる。

(2) 指導のポイント

- (1) 地図の縮尺について指導する場合には、縮尺の意味について理解をさせた後、さまざまな縮尺の地図を比較・検討させる学習活動を取り入れる。また、身近な地域の学習には2千500分の1など、縮尺の大きな地図に親しませ、その活用の技能を高められるようにすることが大切である。
- (2) (3) 身近な地域の学習において、調査のための資料の収集方法を指導する際には、自己の課題に適した情報の収集、資料の選択方法について、十分に内容を検討させ、調査票を作成させて、事前の準備をしっかりと行わせる。また、地域の人々の協力も必要となってくることから、年間計画にしっかりと位置付ける。聞き取り調査の当日は、安全面への配慮を十分行うとともに、地域社会の人々との触れ合いの場を大切に、日常的な挨拶や会話ができるようにすることにも留意する必要がある。

都道府県

(1) 結果の概要

- ④ (1) ① 全国の工業と比較した長野県の工業の特色を、統計資料から読み取る設問である。長野県のグラフだけから工業の特色を読み取る誤答が多く、「全国と比べて」という問題の意味を正しくとらえていない生徒が多かった。無答率も高く、資料を読み取り、その内容を表現する技能が身に付いていない生徒が少なくないと考えられる。
- ② 隣り合う4県と比較して、長野県の工業の特色を統計資料から読み取る設問である。正答率が高く、多くの生徒が設問の意味を正しく受け止め、グラフの比較を正確に行えた。
- (2) 文章資料を基に、諏訪地方で精密機械工業が発達した理由を読み取る設問であり、多くの生徒が資料をしっかりと読み込み、正答することができた。また解答の選択肢が文章資料から読み取れる理由と同じ順番になっており、読み取りやすかったことも正答率の高さにつながっていると考えられる。
- (3) 4つの県の農業生産額の割合をグラフに示し、その中から長野県のグラフを選択することができるかを問う設問である。多くの生徒が割合の意味を正しくとらえ正答できた。新潟県や山梨県のように生産額に偏りがある県の誤答は少なく、グラフの基本的な見方が身に付いていると考えられる。

(2) 指導のポイント

- (1) 都道府県の地域的特色を学習する際は、地図や都道府県単位の統計資料等を、他の都道府県と比較し関連付けて追究する活動を取り入れる。また、地域的特色を理解するための産業分類等、基本的事項は、その都度確認して定着させていくことが大切である。
- (2) (3) 都道府県の地域的特色や変化をとらえる学習では、歴史的背景にも留意して地域的特色を追究する活動を取り入れることに留意する。その際、生徒が自分の言葉で地域的特色の背景を記述し、互いに発表しあい、その結果をまとめていくような活動を積極的に取り入れる。また、生徒が様々な統計や資料を基に地図化、グラフ化していく作業を取り入れることで、生徒の学習に対する意欲の高まりや資料活用の技能向上が期待できると考えられる。

3 問題と結果の考察－3

(単位：%)

内 容	大 問	小 問	問 題	正 答	国の正答率	市の正答率	自校正答率
歴史の流れ	[5]	(1)	年表中の8から20までの数字が何を表しているか答える。	世 紀	48	47	
		(2)	博物館のテーマごとに分かれた10箇所の展示室(下記の1～10)をみて、「古代の政治の中心地」の様子を調べるのに5の「王朝の文化」以外の展示室を選び、答える。 1 日本文化のあけぼの 2 稲と倭人 3 古墳の時代 4 律令国家 5 王朝の文化 6 東国と西国 7 大名と一揆 8 民衆の生活と文化 9 大航海時代のなかの日本 10 農民の世界	4 律令国家	25 *	16	
		(3)	「駒競行幸絵巻」(寝殿造の屋敷で藤原頼通が天皇をもてなす様子の場面)がある展示室を選び、答える。 ※展示室の番号と内容は(2)と同じ	5 王朝の文化	68 *	55	
		(4)	新聞記事の内容をみて、新聞全体のテーマを考えて、記述する。 《新聞の見出し》 〈弥生〉最初の農村と稲の祭り 〈古代〉律令国家と農民の暮らし 〈中世〉一揆に訴える農民と惣村の発達 〈近世〉藩による支配と村びとの生活	(例) 農民(農村)のくらしの移り変わり 各時代の農民のくらし	43	43	
古代までの日本	[6]	(1)	年表の「239年 卑弥呼が魏に使いを送る」のころの日本の様子を選んで答える。 1 皇位をめぐる、国内が二つに分かれて内乱が… 2 大王を中心に、北海道・東北以外の日本が統一… 3 中国の長安にならって、現在の奈良市に都が…	4 多くの国が争う中、邪馬台国を中心としたまとまりができた。	82	82	
		(2)①	大仙古墳の写真をみて、古墳の種類を答える。	前方後円墳	78	70	
		(2)②	古墳から出土したものとしてあてはまらないものの写真を選んで、答える。 1 和同開珎 2 勾玉 3 銅鏡 4 はにわ	1 和同開珎	76	74	
		(3)	聖徳太子が中国に送った手紙の一部をみて、中国との外交政策の進め方として適切なものを選んで、答える。 1 攻撃に備えて準備をした。 2 対等な関係をつくろうとした。 3 使いを送らず、独自の文化を育てようとした。 4 積極的な貿易により経済的な利益を得ようとした。	2 対等な関係をつくろうとした。	60	64	
		(4)	万葉集の「貧窮問答歌」と「防人の歌」の二つ又はどちらか一つを基に年表中の「701年大宝律令ができる」から「794年 平安京へ都を移す」のころの人々の様子を簡潔に説明する文を書く。	重い税の負担に苦しんでいた。	48	55	

歴史の流れ

(1) 結果の概要

- 5 (1) 年表中の数字が世紀による年代を表していることを理解しているかを問う設問である。正答率が低く、「西暦」、「年号」、「年代」という誤答が多かった。また、「世記」、「西紀」などの誤字も多く、世紀による年代の表し方を十分理解していないと考えられる。
- (2) 「古代の政治の中心地」の様子を調べる展示室を資料の中から選択する設問である。採点基準が厳しく、難問となったこともあり、正答率は非常に低かった。6の東国と西国の展示室の「王朝権力の基盤」や7の大名と一揆の「戦国時代の京都」に着目したためか、6を選択した誤答が多かった。古代の特色を十分理解していないと考えられる。
- (3) 平安時代に寝殿造の屋敷で行われている貴族の宴のようすを表した絵画資料がどの展示室のものをかを選択する設問である。正答率は55%であった。6や8の誤答を選択する生徒が約2割もいたことから、平安時代の貴族の生活が絵画資料と結び付けられず、絵画資料の中の束帯姿の人々を武士ととらえていたのではないかと考えられる。
- (4) 新聞記事の内容から共通する事項を考察し、テーマを設定する設問である。「農民のくらし」や「農村」という共通のキーワードは読み取れていたが、正答率が低かった。その原因としては、大問文章中に「歴史の移り変わりを調べるために～」と触れているにもかかわらず、解答に「移り変わり」という表現ができなかった生徒が多くいたことが考えられる。

(2) 指導のポイント

「西暦」、「世紀」、「年号」など、年代の表し方は各教室に常時年表の掲示を心がけ、適宜機会をとられて継続的に指導することが大切である。また、道具や政治の中心地、年号による日本の時代区分の指導とともに、「古代」・「中世」・「近世」・「近代」・「現代」の普遍的な時代区分の意味を理解させる指導を行い、歴史の大きな流れをとらえるための基礎を身に付けさせることが必要であると考えられる。

古代までの日本

(1) 結果の概要

- 6 (1) 卑弥呼が政治を行っていた時代の特色を理解しているかを問う設問である。正答率は非常に高かった。生徒にとって関心が高く、小学校での既習事項でもあり、「卑弥呼は邪馬台国の女王である。」という知識が十分定着していると考えられる。
- (2) ① 写真資料（「大仙古墳」）から古墳の種類を問う設問である。「前方後円墳」や「円方後円墳」などの正答に似たような発音の誤答や「大仙古墳」の名称を答えてしまう例がみられた。また、無答率はやや高かった。それは、語句を記述する解答方式であったためと考えられる。
- ② 写真資料の中から古墳から出土していないものを選択する設問である。正答率が高く、「和同開珎」は古墳時代の遺物でないことを十分理解していると考えられる。
- (3) 文章資料から聖徳太子の外交政策（遣隋使派遣の意図）を読み取る設問である。正答率は高かった。この資料はよく取り扱われており、指導の成果が表れたと考えられる。
- (4) 万葉集の資料から律令制度下の農民の様子を読み取り、簡潔に説明文を記述する設問である。税の負担が重いことに触れずに「とても貧しかった。」とだけでは不可とする厳しい採点基準の割には予想以上の正答率であった。資料の一部をそのまま書き写す誤答があり、資料を読み込んで内容を理解して自分の言葉で表現することを不得手とする生徒も少なくないと考えられる。

(2) 指導のポイント

本大問においては、全体的には正答率は高かった。知識は概ね定着していると考えられる。小学校の既習事項を中学校でさらに深める指導が期待される。特に、歴史用語を定着させる指導においては、声を出して確認させたり、歴史用語辞典や国語辞典、資料集で歴史用語の意味を調べる習慣を身に付けさせたりすることが大切だと考えられる。また、様々な資料から当時の様子を読み取らせ、自分の言葉で表現する指導を継続させる必要がある。

3 問題と結果の考察－4

(単位：%)

内 容	大 問	小 問	問 題	正 答	国 の 正 答 率	市 の 正 答 率	自 校 正 答 率
近 世 の 日 本	7	(1)①	「城下町の図」、「中世の鎌倉時代の武士の館」、「弥生時代の集落」をみて、共通した工夫について簡潔に説明する。	外的の侵入を防ぐためにほり(濠)がつくられている。	42 *	43	
		(1)②	「鶴岡城」を中心に、「武家地」、「町人地」、「寺社地」「農民地」に別れた図をみて、町の種類を選んで、答える。 1 門前町 2 港町 3 城下町 4 宿場町	3 城下町	83 *	79	
		(2)①	テーマに基づいて集めた三つの資料をみて、設定したテーマを選んで答える。 資料 D 「一遍上人絵伝」(一遍が鉦を打ち、床を踏み鳴らして踊り念仏をしている場面) 資料 E 「法然上人絵伝」(法然の念仏を人々が聞いている場面) 資料 F 「南蛮図屏風」(南蛮寺を拡大した絵) 1 商人の活動と店先のような 3 都市の発達と建築作業のような 4 農業の発展と農作業のような	2 宗教の信仰と布教のようす	74	77	
		(2)②	南蛮寺でキリスト教の布教がさかんに行われていたころの文化交流について最も適切な文章を選んで、答える。 1 雪舟は明に渡り、さかんに行われていた水墨画… 2 栄西や道元によって中国から伝えられた禅宗… 3 東大寺正倉院に保存されている装飾品、…	4 ヨーロッパから伝わった…カステラ、パン、カップなどのように…	54	63	
	8	(1)	アからカの資料を〔ア エ オ〕と〔イ ウ カ〕に分類したとき、どのような考えで分類したかを選んで、答える。 ア 刀狩例 エ 検地帳と検地のようす オ 大阪城復元図 イ 楽市 ウ 長篠の戦 カ 安土城復元図 1 外国と国内の違いにより分類した。 3 政治と文化の違いにより分類した。 4 身分の違いにより分類した。	2 政治を行った人物の違いにより分類した。	46 *	64	
		(2)	資料アの刀狩令と資料エの検地帳と検地のようすに関する政策にあてはまらないものを選んで、答える。 1 ものさしやますを統一し、土地もその収穫量を示す石高で表した。 2 田畑の良し悪しを調べて、年貢をとる基準とした。 3 武力による反乱を防ぐとともに、農民の身分をはっきりさせた。	4 武士が質などに入れて手放した土地をただで取り戻せるようにした。	61 *	67	
		(3)	資料ウからカまでのの中から興味のあるもの一つを選んで、選んだ資料に関して、調べたいことを記述する。	(略)	68 *	81	

(1) 結果の概要

- 7 (1) ① 異なる時代の三つの資料から共通点を見だし、文章表現する設問である。ほりや濠に類する語句がないと不可とした厳しい採点基準だったこともあり正答率は43%であった。誤答の中には「畑が広がっている」という解答が多く、ほりや濠ではなく、周囲の様子に着目する生徒が多くいたと考えられる。また、資料Cの吉野ヶ里遺跡の復元模型の写真に環濠集落の濠が鮮明に表されていなかったことも正答率が低かった原因であると考えられる。
- ② 示された地図資料が城下町であることを読み取る設問である。正答率は高かった。資料中に「鶴岡城」と記載されていたり、城の周囲のほりをしっかり読み取っていたりしていたことが高正答率になったと考えられる。
- (2) ① 三つの資料をみて、共通するテーマを考察する設問である。正答率は高かった。「一遍上人絵伝」や「法然上人絵伝」の中のそれぞれの僧侶の姿をしっかり読み取っていたと考えられる。
- ② 南蛮寺に関する資料が示す時代の外国との文化交流の様子を理解しているかを問う設問である。正答率は高かった。南蛮寺の資料から戦国時代から安土桃山時代にかけて、ヨーロッパ人の来航によりキリスト教やヨーロッパの文物が伝わった様子について概ね理解できていると考えられる。
- 8 (1) 織田信長と豊臣秀吉に関する複数の資料をみて、資料の分類分けの観点を考察して判断できるかを問う設問である。正答率は比較的高かった。各資料に「刀狩令」など資料名が記載されていたこと、生徒にとっては興味・関心が高い人物の代表的な政策を示す文書資料や絵画資料であったこと、また、この時代の学習活動で活用される頻度が高い資料であったことなど、日頃の学習指導の成果が表れたと考えられる。
- (2) 刀狩と検地のねらいや内容を理解しているかを問う設問である。正答率は高かった。それぞれの政策に関する様々な知識が確実に身に付いていると考えられる。
- (3) 複数の資料の中から、興味ある資料を選択してそれについて調べたいことを問い、関心・意欲・態度の定着状況をみる設問である。文章記述解答式であったため低い正答率を予想したが、正答率は非常に高かった。生徒が自ら課題を設定する調べ学習に対する興味・関心・意欲が高いと考えられ、日ごろの学習指導の成果が表れたと考えられる。

(2) 指導のポイント

本大問は全体的に正答率が高く、学習指導の成果が表れていると考えられる。特に、戦国時代から安土桃山時代までの学習内容は、織田信長と豊臣秀吉の業績を中心に小学校の既習事項が定着している状況がみられる。中学校の指導においては小学校の既習事項を基に、それまでの時代との大きな違いや海外との関係のあらましを通して政治や社会の変化を理解させるなど、学習指導要領に示された内容の取り扱いに十分配慮して指導することが大切である。

4 まとめ

【調査結果の概要】

〈全体〉

- 内容のまとまりごとの正答率では、歴史的分野の「歴史の流れ」を除く各内容で概ね満足できる状況である。
- 評価の観点別に集計した正答率では、観点による大きな差はなかった。
- 6問あった文章を記述して答える設問の正答率が低く、無答率は高かった。

〈地理的分野〉

- 「世界と日本の地域構成」…半球図で水陸分布を読み取る設問や日本の位置を経緯線との関係で答える設問の正答率が低い。
- 「地域の規模に応じた調査」…調べ学習の手順が理解できているなど、おおむね満足できる状況であるが、目的に応じた縮尺の地図を答える設問の正答率が低い。

〈歴史的分野〉

- 「歴史の流れ」…内容のまとまりごとの正答率で、最も低い正答率であった。特に、複数の時代にまたがる設問や世紀による年代の表し方を答える設問の正答率が低い。
- 「古代までの日本」…邪馬台国や古墳文化など、国家が形成されていく時期の基礎的な知識の定着がおおむね満足できる状況である。
- 「近世の日本」…おおむね満足できる状況である。しかし、「城下町など三つの資料に共通する特色」を答える設問の正答率が低く、複数の時代にまたがる知識の定着状況に課題がある。

【今回の調査結果を踏まえた指導上の改善点】

〈地理的分野〉

- 国名や地域名の確認や大陸と海洋の水陸分布の学習では様々な地図や地球儀を活用する。また、教室に地球儀を設置したり、地図を掲示したりするなど地図や地球儀に親しませる。
- 身近な地域の調査では、フィールドワークの際に縮尺の大きな地図（5千分の1や2千500分の1）を活用し、学校周辺の土地利用についての読図学習を行う。
- 縮尺を意識した地図を作成させるために方眼紙の活用を図る。

〈歴史的分野〉

- 「歴史の流れ」では、小学校の既習事項の定着状況を確認するための調査を行う。そして、定着状況に応じて、各自のテーマに基づいた絵入の年表作りや歴史新聞作りを取り入れる。
- 単元のまとめの振り返りで、学習した時代の特色を年表等でまとめる学習を年間計画に位置付ける。さらに、作成した年表等を活用して他の時代と比較させる。